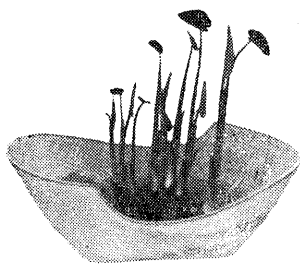


# 芸園と児幼

阿久沢 栄太郎



## はじめに

花のある幼稚園は、なんとなくうるおいがあり、落ち着いた雰囲気をかもし出します。

幼稚園の花つくりには、二つの大きな意味があります。

その一つは雰囲気づくりであり、他の一つは幼児に、より正しい経験をさせることです。

## 一、種子をまくところ

広い敷地を持っていて、めぐまれている

環境の幼稚園では、すこし工夫すれば種子をまくところをかんたんにきめられるけれども、敷地に余ゆうのない幼稚園もあるので、ここでは敷地に余ゆうのある場合と、余ゆうのない場合にわけて考えていくことにしましょう。

## 1 敷地がせまい場合の工夫

敷地がせまい場合でも花をつくることは決して不可能ではありません。

適当な、日当りのよい場所をえらんで、リングのあき箱などに土を入れてたねまきの準備をしてください。近所の八百屋さんなどに頼んでゆずり受ければ、りっぱな廃物利用にもなります。

ふつう、植木鉢にたねまきをすることを考えますが、学校で鉢植えにしたものせわはん雑で灌水も忘れがちになりますので、リング箱位の大きさのある方が安全です。

(特に、日曜や連休などにはせっかくの

草花がすっかりしおれてしまったりして、かえってマイナスの効果をあらわしてしまふことにもなりますから……。

次に、特殊なものとして、サツマイモやサトイモ、クワイなどの水盤つくりもできますので、いろいろな形や大きさの水盤を準備することもよいと思います。

## 2 敷地の余ゆうがある場合の工夫

敷地のゆとりのある場合には、どこに種子をまいてもよいわけですが、敷地のつかい方に注意することが必要だと思ひます。

花だんの形や大きさは、まきつける種子の生長していく期間や花の咲く時期などと考え合わせて、美観にも十分留意することが必要です。

校地の余ゆうのあるところでも、わざわざりんご箱などを利用して変化を出すようにする工夫もできます。

りんご箱に土を入れたものを土の中に半分ほど埋めて、そのまわりをいろいろな形

の花だんにすると、なかなか見事なものができます。

## 二、まく種子の種類

四月から五月頃にまく種子はふつう春まきといわれる草花です。

四月にまく種子には、サルビア、ダリーア、ホウセンカ、ヒヤクニチソウ、キンセンカ、オシロイバナ、ケイトウなどがあります。

五月にまく種子には、アサガオ、オジギソウ、ハゲイトウ、ヘチマなどがあります。

また、水盤用のものとしては、サツマイモ、サトイモ、クワイなどがあります。

すこし興味・関心の深いかたがたには、ヘチマやヒョウタンをまきつけることもおもしろいものです。

ヘチマにはふつうのヘチマでなく、九尺ヘチマという種類のものがよいと思ひます。棚をつくつても実がなりさがる頃にな

ると(九月の頃)地面につくまでのびるので、幼児におどろきの目を見はらせるのに十分です。

特に生長のはやい、この九尺ヘチマの実は、実ができて伸びはじめるを目にみえてのびていきますので、毎日たのしみにながめることもできます。

また、ヒョウタンもおもしろいものです。

ヒョウタンには大ヒョウタンと、千成ヒョウタンがあり、八月から九月に独特の形のヒョウタンがなりさがるのを観るのはたのしみなものです。

## 三、種子まきのしかた

たねまきは幼児といっしょにできる場合と、先生がたねまきをして、観察させたりせわをするお手伝いをさせたりする場合があると思ひます。

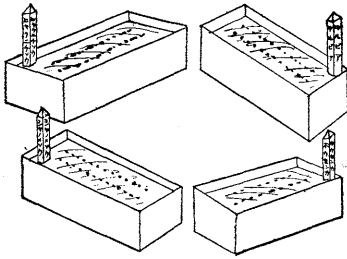
これは、現場の状況によりきめていただくのが一番よいことであると思ひます。

ここでは、先生が準備をしたねまきをし、子どもが可能な範囲で灌水などの手伝いをする程度のことを中心に考えてみたいと思います。

## 1 リンゴ箱の園芸

リンゴ箱をいくつか準備し、これを日当たりのよい適当な場所をえらんで適当に組み合わせる形でつくり、土を九分目位いれて準備してください。

リンゴ箱には、あまり丈の高くなる草花



やつるになってのびるものは不適當です。

ふつうはヒヤクニチソウ、サルビア、ホウセンカ、などが適當です。ヘチマ、ヒョウタン、コスモス、アサガオなどは、やはりゆとりのあるところにまきこんで、自然の姿でつるを伸ばして観察できるようにするのがよいと思います。

しかし、アサガオなどは手入れのしかたさえ、適確にすれば、リンゴ箱の草花園でも結構たのしめます。

こんなしゃれた草花園に子どもの夢の世界をつくり、思いきってかわった名前でもつけて立札などたててやるのも一つのおもしろい方法でしょう。

肥料は、都会ならばデパートの園芸部や種子などを売っている店にあるものを求めてくればよいと思いますが、ハイポネックスのようなものを使えば使用法もかんたんで幼児に扱わせることもできてよいと思います。

リンゴ箱の草花園も工夫のしかたで思い

もかけない収穫を期待することができませんから、ぜひ実行してみてください。

種子のまき方にはふつう次のような方法があります。

### ① 散播(さんぱ)

ばらばらとまく方法です。三本ゆびで小つぶの種子をつまんで、ばらばらとまくこともあります。また、小さい種子を、よくくだった土にまぶして、両手の手のひらでまぶした土をすり合わせるようにしてばらばらとまいていくこともあります。

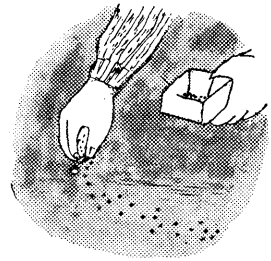
サルビアのたねやホウセンカのたねはこの方法でまいてもよいでしょう。

### ② 条播(じょうは)

すじまきともいわれるまき方です。散播と同じように小つぶのたねをまくときに使う方法です。

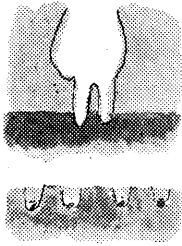
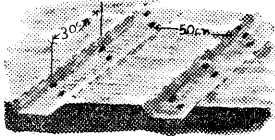
三本ゆびでつまんですじのようにまいていきます。

すじまき



③ 点播(てんば)

てんまきともいいます。比較的大つぶのたねをまく時につかわれます。たとえば、アサガオ、ヒマワリ、オシロイバナ、ヘチマなどは、この方法でまくことが多いようです。うねやみぞをつくってから、一つぶま



たは二つぶずつ、規則正しい間かくと中でたねをおいていくようにします。

また、時には図のように、ゆびで地面にあなをあけて、そのあなの中に一つぶずつおとしていく方法もおこなわれています。

以上のような三つのちがったまき方は、まく場所や種子の種類によってちがってきますが、どの種子は、どの方法でやらなくてはならないというきまりがあるわけではありません。

2 校地利用の園芸

校地を利用する時には、草花園のまわり  
に適当な仕切りや柵などをつくとと美  
観をととのえることができます。

校地にまく種子は、リンゴ箱の草花園のように草丈や期間などで制約を受けることが比較的になくなりま  
す。

ヘチマやヒョウタンのように、つる  
になってのびるものもまくことができ

ます。

また、コスモス、ヒマワリ、のように草丈ののびる植物もまくことができます。

しかし、種子をまく時に、草丈や花期、生育期間などをよく考えてまかないと、丈の低い草花が、丈の高い草花のかげになっ  
てしまったり、また、丈の低い草花が丈の  
高い草花のかげにかくれてしまったりして  
あとで、"しまった"と思うような結果にな  
ってしまうことがあります。

そのような点をあらかじめ見とおしてま  
くことが大切です。

次にまき方は、リンゴ箱の草花園のこ  
ろで述べたのと同じように種子の種類や場  
所によりきめるようにするとよいと思いま  
す。

ヒマワリのような草花は思いきってはな  
してまき、あとで十分生長できるように考  
えておくことが必要ですし、また草丈が高  
くなっても、コスモスのように、一本ずつ  
あまりきよりはなしすぎるとかえってた

おれやすくなってしまうものもありますから、まき巾やまく間かくは種子の種類によって、よく考えてまくことが大切です。

#### 四、水盤づくり、水づくりのしかた

水盤づくりや水づくりは教室の中のしごとになるので、屋外とはおもむきが変わります。

適当な大きさや形の水盤、水栽グラス、水そうなどを準備してください。

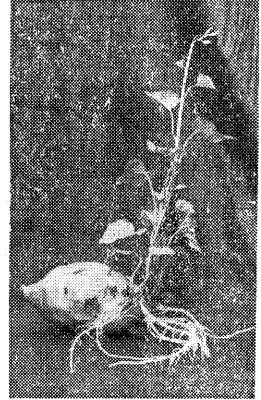
#### 1 サツマイモの水盤づくり

サツマイモの種いも（ふつうのいもですが、片方に芽の出る部分のついているものがよい）を購入して、これを水のはいた水盤に入れておくだけでよいのです。

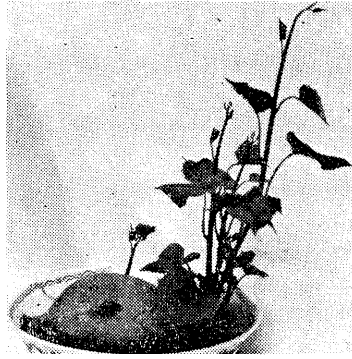
（水は、サツマイモが半分位浸る程度にします。）

このようにしておくと、次第に芽が出てのび出し、サツマイモの苗のように、きれいな風情をそえてくれます。

水栽培したサツマイモの芽と根



サツマイモの水栽培



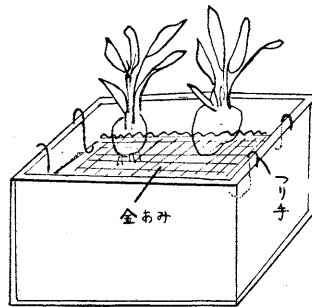
#### 2 サトイモ、クワイの水そうづくり

水そうに水を八分目ほど入れ、その上に水に接する程度に金あみをつりさげます。

その上に綿をうすく敷いてサトイモの種

いもをのせておきます。

水を吸収した綿はたえずサトイモに水分を供給するので、やがて芽を出してきて、初夏の頃、ずいしそうな雰囲気をつくることができます。

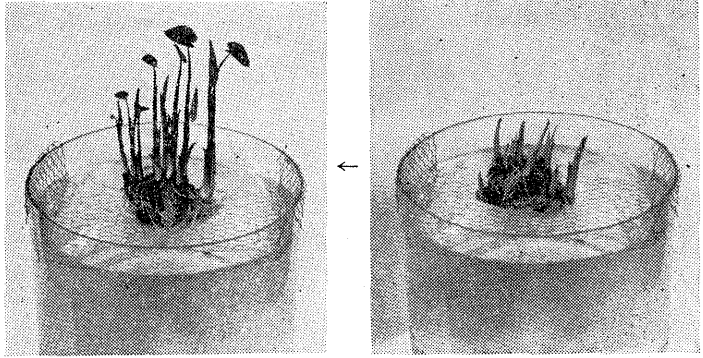


芽を出したサトイモ

相当長くもちますので教室内のかぎりの役割も果します。

クワイも同じようにして、つくるとよいと思います。

水そうのかわりに水栽グラスをつかって栽培するのもおもしろいでしょう。



## 五、せわのしかた

幼稚園では幼児にせわをさせることは、いろいろな点で無理なことが多いので、特

別な場合を除いては、先生がせわをして、時々、観察をさせるのが原則になると思います。

しかし、ジョウロを購入しておいて（あまり大きくないもので丈夫なものを選ぶこと）灌水の手伝いなどをさせることはできると思います。

毎日、きまった時刻に灌水をさせるように指導するのもよい方法でしょう。

また、ハイポネックスのようにかんたんに扱える肥料を購入しておいて、先生が適量を水にとかして準備し、与えさせることもよいと思います。

## 六、幼稚園で特に留意して扱って

### もらいたいこと

幼児の身心の発達状態では、たねまきの技術や観察の能力を身につけさせようとするのは無理なことで、このようなことは、あまり考えなくてよいことだと思います。

それよりも、幼児が草花も生きているも

のであることを心の中にとらえ、これをふんだり、ちぎったりして生命をたつことはかわいそうなことであるという意識をすこしでも高めていただくようにするのがよいと思います。

特に、都会の幼児は切花を家庭や学校でかざってながめることに慣れているので、花は切花にするものだという意識が身体や心にしみついてしまい、草花に対する生命観がゆがめられていることが多いようです。

植物、特に草花が美しい花を開くのは切花になって人間に奉仕するためではないが、人間は遠慮会釈もなく、切りとって花びんにさしたりしている状態なのです。

すこし理屈っぽくなりましたが、正しい生命観の養成は幼稚園時代においても、よく考え、一歩でも二歩でも前進させておくようにすることが大切だと思います。

（お茶の水女子大学付属小学校）